

令和3年度第2回当市子ども・子育て会議 議事概要 (※)

日時	令和4年2月2日(水) 午後7時～
場所	坂井健康センター1階ホール
出席者	委員：石川会長、伊藤副会長、前沢委員、天満屋委員、竹内委員、中嶋委員、 宮崎委員、児島委員、明間委員、長侶委員 事務局：千秋部長、井上次長、浦課長、栗原課長、結城参事、 矢尾参事、高間課長補佐、木村課長補佐
欠席者	1名
協議事項	(1) 令和4年度認定こども園の実施について (2) 令和4年度教育・保育事業、放課後児童クラブ事業申込状況について
資料	資料1-1 私立幼保連携型認定こども園 もみじ認定こども園の概要 資料1-2 私立幼保連携型認定こども園 よつばこども園の概要 資料1-3 私立幼保連携型認定こども園 すずらんこども園の概要 資料2-1 令和4年度保育園等入園児童予定数 資料2-2 令和4年度保育園別新規入園希望者状況一覧 資料3 令和4年度放課後児童クラブ登録児童数

(※) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に歯止めがかからないことから、対面での開催を中止し、書面での開催に変更。

(※) 委員11名のうち会議資料についての意見等提出者10名。これをもって過半数以上の出席とみなす。

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議題

(1) 令和4年度認定こども園の実施について

①認定こども園への移行について <資料1-1～1-3>

(2) 令和4年度教育・保育事業、放課後児童クラブ事業申込状況について

①教育・保育事業について <資料2-1、2-2>

②放課後児童クラブ事業について <資料3>

4. その他

5. 閉会 (副会長あいさつ)

【参考】書面開催による委員からの質問と事務局の回答

(1) 令和4年度認定こども園の実施について

①認定こども園への移行について <資料1-1～1-3>

【会長】

定員がそれほど多くない園もあるが、3園とも問題ないか。また、県知事の認可はいつ頃か。

【事務局】

各園において、現在、在籍している2号・3号認定子どもの1号認定子どもへの変更がある見込みのほか、当該地区の就学前の児童数の推移を見ると、子どもの数は緩やかな減少傾向であることから、定員設定は地域の需要を満たすものと考えている。

県知事の認可は3月中旬頃の予定である。

【委員】

認定こども園にするのはなぜか。

【事務局】

認定こども園というのは、幼稚園と保育園の機能や特徴をあわせ持ち、保育が必要なお子さんもそれ以外のお子さんと一緒に教育・保育の提供を受けられることができる施設である。現行の保育園は、保育が必要な場合のみ、お子さんをお預かりできる施設であるため、幼保連携型の認定こども園になることで、3～5歳児のお子さんは、保護者の就労等の状況変化にとらわれず、同一の園で継続して教育・保育を受けられるようになる。

今回、移行を予定している3園については、地域の子どもの数や保護者のニーズ、園の運営の在り方などを各園において検討を重ねた結果、こども園への移行の申請に至ったものである。

また、認定こども園は、地域の子育て支援を行う施設と位置付けられているため、園に通っていない地域の子育て世帯の身近な子育て相談や親子の交流の場としての役割もあわせ持つことになっていく。

(2) 令和4年度教育・保育事業、放課後児童クラブ事業申込状況について

①教育・保育事業について <資料2-1、2-2>

【会長】

入園を希望される方は、第1希望に入ることができているのかどうか。

私立園を見ると少ないところがある。今後どうしていくのか考えていく必要がある。

高椋幼保園は、3歳児の入園者がいなくて0名となっている。将来、休園するのか。

新型コロナウイルス感染症、特にオミクロン株への対応をどうするのか。大阪の例もあるし、保育士だけでなく調理師もいる。

広域委託について、福井市では森田地区に3園あるが、状況はどのようか。

0歳児の合計を見ると、昨年度の287名から357名に大きく増えている。配置基準の変更が必要と思われるが、保育士の数は足りるのか。

【事務局】

第1希望に入園できているかについては、地域によって偏りがある。三国・丸岡・坂井地区においては、比較的、第1希望の園に入ることができているが、春江地区など一部地域においては第1希望の園には入園が難しく、第2・第3希望または、それ以外の園を案内している状況である。

国の人口減少と同様に、当市においても人口が減少している地域があり、そこに所在する園については、園児数も減少している。園のあり方については、地域の状況や小学校区等も考慮しながら、市全体として検討していく必要があると承知している。

高椋幼保園は3歳以上児のみを受け入れている園で、未満児の受入れをしていないこと、同じ学校区内に他に2つの園があるなどの理由から、入園希望者は年々減少し、令和4年度には3歳児の入園希望者が0名となっている。これらの状況を踏まえ、今後の高椋幼保園のあり方について検討を行っていく必要がある。

オミクロン株による新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、当市においても保育士や調理師自身が自宅待機になるなど、保育現場においては一時的に保育士等の不足が生じるということもあるが、園内で協力しながら保育を行っている状況である。現在、福井県下では感染の高止まり状態が続いているが、当市においては大阪市のように保育士不足から一斉に保護者に家庭保育の協力を呼びかけるというような状況には至っていない。今後も、状況を見極めながら対応をしていくことになる。

福井市の森田地区に新しく創設する3園に、当市から広域委託を希望した園児はいなかった。なお、令和4年度において、当市から他市町（福井市を含む）への広域委託を希望した園児は52名となっている。

国の配置基準では、0歳児においては保育士1人に対して3人の園児、1歳児については保育士1人に対して6人の園児となっている。令和4年度では、当市において0歳児の入園希望は増えているが、1歳児の入園希望は減っている。これらの状況から保育士の配置を見直し、現時点では、必要保育士数は確保できる見込みである。保育士の確保は、保育の質を保つ上でも重要であることから、保育士確保対策には引き続き取り組んでいく。

【委員】

保育園への待機児童はいるのか。いるとしたら、どのような対応を考えているのか。

【事務局】

待機児童はいない。園を選ばなければ、保育を希望する方全員が、市内いずれかの園に入所できる状況にある。ただし、全員の方に希望する園を案内できている状況ではないため、希望する園に入所できなかった方の中には、希望する園に入所するためにキャンセル待ちをしたり、育児休業を延長したりするなどして、入所を取りやめる方もいる。

【副会長】

申込状況を見て、どういう理由があるのか知りたい。出生数だけの問題なのか。取り組む課題も見えてくると思う。

【事務局】

園によって申込状況にバラつきがある一番の要因としては、各地域における子どもの数によることが大きいと考えられる。当市の現状では、三国・丸岡・坂井地区においては子どもの数は減少傾向にあり、春江地区においては横ばいの状況となっている。

多くの保護者は、登園の利便性から自宅近くの園を希望されている。特に、3歳以上児ではその傾向はより強く、将来の就学を意識した小学校区に所在する園に入園されているようである。

同じ小学校区内の園においては、園や保育士の雰囲気、園の活動内容、施設の設備などをそれぞれ保護者が選択し、希望の園を決めていると思われる。

【委員】

資料2-1の高椋幼保園と春江幼保園について、入園児童予定数が定員数を大きく下回っている。資料2-2の春江東保育園、春江みどり保育園、いと勢保育園、春江ゆり保育園は、新規で希望しても入園できない人数が多いことが読み取れる。春江幼保園エリアでは、0～2歳児の保育ニーズは高く、幼保園の形態自体が地域の子育て層の保育ニーズにマッチングしていないのではないかと。来年度、その形態の見直しも含めた計画はあるのか。

資料2-1の春江東保育園と春江ゆり保育園について、定員数より入園予定児童数が若干だが下回っている。その理由は何か。

資料2-2について、第1～3希望以外への園への入園予定が昨年度の3.5倍になっていることが読み取れる。その主な要因は何か。また、希望外の園のため、入園自体を取り下げた方はあったのか。

当市全体において、0～2歳児の入園率（それぞれに年齢別で）はどのくらいなのか。それが分かればお知らせ頂きたい。

【事務局】

春江小学校区において、0～2歳児の保育ニーズが高まっていることは承知している。春江幼保園は現在、設備面で3歳未満児を預かりできる園ではないため、0～2歳児の間は他の小学校区の園への登園をお願いしている状況である。今後、地域の出生数や保育ニーズなどの状況をもとに、地域全体で保育量を確保できるよう検討を行っていく。

春江東保育園については、5歳児では、ほぼ全員が春江東幼保園への入所を希望しており、令和4年度においても5歳児の数は0名となっている。その代わりとして、未満児をいくらか多く受け入れているが、保育室の面積や職員数の関係で、受け入れられる未満児の数に限りがあるため、全体として定員を少し下回る結果となっている。春江ゆり保育園については、保育の質を確保したいという園の意向や職員数の関係等により、受け入れ数が減少している。

第1～3希望以外の園に入園する方の約65パーセントが、春江小学校区の未満児である。この地区においては、未満児を受け入れられる園が、私立3園と公立1園となっており、例年、私立3園を第3希望までに希望する方が多く、この3園を希望する方には、第1希望の園に入ることができなかった場合、ほぼ、第3希望外の園を案内することになってしまう状況である。これに加え、令和4年度は0歳児の入園希望者が大きく増加したこと、さらに、春江小学校区において保育を必要とする子どもを持つ年代の人口が増えていることが主な原因となり、第3希望外の入園者数が増加したものと考えられる。

当市の0～2歳児の入園率は次のとおりである。

＜令和3年度入園状況＞（令和4年3月1日現在）

年齢区分	入園者数	住民登録数	入園率
0歳児（R3.4.2～R4.3.1生）	2名	551名	3.0%
0歳児（R2.4.2～R3.4.1生）	300名	555名	54.0%
1歳児	537名	629名	85.3%
2歳児	581名	654名	88.8%

（2）令和4年度教育・保育事業、放課後児童クラブ事業申込状況について

②放課後児童クラブ事業について <資料3>

【会長】

昨年度と比べると、通年では三国地区が大きく増えている。丸岡地区は減っていて、春江地区は増えている。坂井地区はほとんど変わっていない。全体の人数では1,796名から1,835名へと増えている、利用率が高くなっている。

保護者は働いていかなければならず、どこかで子どもの居場所を作ってあげないといけない。子どもの数が減っているけどクラブを利用したい子どもがいるということは、地域で遊んでいる子どもがいなくなっているということなのだろうか。

【事務局】

毎年、新1年生の入学児童数で、児童クラブの登録児童数が変わってくる。昨年度より人数が増えている児童クラブは、ほとんどが新1年生の人数の増加が要因となっている。

特に、三国地区については、新1年生全体の数が多くなっているため、児童登録数が増えている状況である。

また、地域によって児童クラブへの入会率にはバラつきがあり、小学校の児童数が少ないところほど、入会率が高い傾向にある。そういったところは、平日、地域で遊んでいる子どもがほとんどいない状況と思われる。

【委員】

放課後児童クラブでは、子どもたちはどのように過ごしているのだろうか。

【事務局】

学校から下校後、宿題・おやつ・自由遊びをして過ごしている。夏休みなどの長期休業中は、1日の生活計画を立てて、学習をしたり、各種体験や遊びを取り入れたりして過ごしている。

【委員】

資料3からは、希望者が希望された時期から希望する場所のサービスを受けられているか否かが読み取れないが、その点について知りたい。

春江東第一児童クラブは1年生40名、2年生0名。春江東第二児童クラブは1年生0名、2年生42名。1年生と2年生を固めた理由は何か？

【事務局】

入会審査を行って、児童クラブの利用が必要と判断した方については、希望される場所へほぼ入会できている。ただし、施設の都合により、同じ小学校で数カ所に分かれる場合には、必ずしも希望どおりにならないことはある。また、希望される時期は4月がほとんどだが、家庭の都合によりそれ以外の時期についても随時対応している。

春江第一・第二児童クラブの人数構成については、施設の面積から、受け入れできる人数を学年ごとに考慮した結果である。1年生は移動による危険回避のため小学校内の施設を基本とし、その他の学年は人数に応じて受け入れできる施設に振り分けている。

4. その他

【委員】

児童虐待への対応が問題となっているが、当市ではどのような対応を考えているのか。

【事務局】

当市では、児童相談所や警察、学校、保育園、民生委員など地域の多くの関係機関により構成する要保護児童対策地域協議会を設置し、児童虐待が疑われる案件の早期発見、情報共有や役割分担、児童虐待防止に連携して対応している。